

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572200170		
法人名	有限会社 悠々福祉サービス		
事業所名	グループホーム 高千穂	ユニット名	1F
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井3258-2		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年5月16日(水)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JizyosyoCd=4572200170-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成29年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、一緒に、楽しく」をスローガンに入居者第一の安心安全の確保、栄養士の献立による栄養管理と旬の食材を生かしたおいしい食事の提供、普通食が食べられない入居者の為の特別食の配慮など楽しみながら食べて頂く食事に心がけている また、夜間救急対応の出来る町立病院がすぐ近くにある医療面での対応が即受けられる。周辺には温泉や温水プール四季折々の変化が楽しめる美しい山々があり静かな環境にある。毎週1回の役職会議と月1回の全体会議には管理者、経営者も参加し職員の意見が即、運営に反映されるようになっている。地域の老人クラブの方々をお招きし毎年5月にこいのぼり運動会楽しく交流していただいている。また、職員の勉強会では人間学を学ぶ月刊誌「致知」を読んで感想文を提出し月1回勉強会を開催し意見交換をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長や管理者は地域とのつながりを大切に思い、老人クラブへの働きかけや学生の受け入れなど、地域の一員として積極的に取り組んでいる。近隣からお裾分けを頂いたり、また、運営推進委員会議において地域の方々から「ホームを支えていく」という、温かく心強い支援を得ている。介護経験豊かな職員が多く、利用者に対するケアは質が高く、きめ細やかで、行き届いている。豊かな自然と家庭的な環境の下、利用者は安心して自由に生活をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり一緒に楽しく」のスローガンのもとに日々利用者の方とふれあいケアが出来る様に努めている。		玄関や居間など、ホーム内の目に届く所に何か所も理念が掲示してある。日々利用者との関わりの中で常に意識できるように工夫がしてある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の体験学習の受け入れや地域の方を運動会に招待するなど行事を利用して交流を図っている。		防災無線で町の情報が毎日配信されている。その情報をもとに必要に応じ交流を図り、地域の一員として取り組んでいる。また、ボランティアの受け入れや運動会への参加の声かけ、近隣からのお裾分けもあるなど、地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にホーム便りを発行し活動内容を伝え生かしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2か月に1回会議を開きより良いサービスが出来るよう意見を取り入れている。		周辺地域の公民館長2名、民生委員2名、消防団長が参加する等多彩なメンバーとなっている。様々な話し合いや情報を受け、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で町の福祉関係者などの意見を聞き質の向上に取り組んでいる。		運営推進会議後の行事などに、行政の積極的な参加がある。ホームもまた、相談事や運営状況などを報告し連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関の施錠を除き自由に行き来が出来るようにしている。		拘束の弊害については職員全体会議において折にふれ勉強をしている。外に出るのを好まれる利用者には散歩を取り入れたり、ドライブをするなど自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の全体会議や研修の場を通じて勉強の機会をもうけ周知に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の目的について全体会などで学ぶ機会を持ち、それらを活用できるように支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者や家族との面会の場での説明や家族会を実施して交流を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料支払い時や面会の場を利用して意見や要望を聞いたり家族会や運営推進会議の場をもうけて運営に反映させている。	面会時や家族会、敬老会等の行事の時、意見や要望を引き出す努力をしている。利用料の諸経費について家族会から値上げの意見が出され、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で、意見交換や提案を聞き反映させている	月1回の全体会議において、職員の意見や要望を聞く機会はある。出された意見は討議し運営に反映させているところもあるが、十分に把握しきれない可能性もある。	把握しきれない意見や要望を見つめ直し、検討を行い職員に周知する取組を期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議で代表者も出席して意見交換を行える時間を取り各自の向上に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議でテーマに沿った勉強会や福祉関係の研修を受ける機会を設けている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設と情報交換し研修会なども参加させてもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のコミュニケーションや観察により本人の困っていること、不安なことなどに耳を傾け信頼関係を築いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時やその後の面会時など家族と話す機会を設け信頼関係に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集やサマリーで観察し状況変化に気づく様に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にドライブに行ったり散歩や掃除、洗濯物たたみなどでできる限り関わっていただき関係を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日ごろの生活状況を写真やコメントでホーム便りに掲載し、共に支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷めぐりなどのドライブを計画し、実家や嫁ぎ先などなじみの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	鼻歌が出ている利用者には歌の本をさりげなく手元に置いたり、パズル好きな利用者にはパズルを用意する等、一人ひとりの趣味や好きな事を把握しており支援に生かしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や介護度を考慮しながら座る位置に注意を払い、なるべく衝突しないように声かけし注意を払っている			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院、退去後は必要に応じ電話や面会を行い相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの面接をしどのように暮らしていきたいか思いを尋ねる。困難な場合は本人本位に検討している	座っている利用者が立ち上がりソワソワ始めると排せつのサインである等、職員は、様々な行動に本人の思いが何かを把握しようと努力し、納得が得られるまで丁寧に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に伺っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の朝夕の申し送りの中で個別の状況報告を受け現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合ったり遠方の場合は書類を頂いたり面会の時に意見を伺ったりしている	本人、家族の思いや職員の意見、また、日々の記録を参考にし、現状に即した計画を作成している。毎月、全体会議でケアカンファレンスを開催しているがモニタリングまでには至っていない。	毎月のモニタリングをはじめ、更新や見直しのあった計画は全体会議で職員全員で理解を深め、いつでもケアプランや情報が共有できる取組を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日報、介護カルテ、排泄確認表などの情報を共有し日々の体調の変化を確認しながら検討、見直しをしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して必要な支援、サービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団との総合防災訓練やボランティアの踊り、地域の老人クラブとの合同運動会など交流を図っている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や急変時の受診の速やかな家族への連絡を行っている	嘱託医と町立病院がかかりつけ医となっている。職員が同行受診し結果は家族に報告している。町外の受診や利用者の身体状況によっては、家族と共に職員も同行し受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ看護師に連絡相談し適切な受診や看護を受けられるようにしている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を医療機関に提供し毎日の面会や洗濯など必要な援助を行い病院関係者との情報交換や相談に努めている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを家族に十分説明し方針を共有しながら地域の関係者とともチームで支援に取り組んでいる	リビングウィルを作成し、契約時に確認をしている。利用者の状況により家族、医療、職員と話し合い、ホームとして対応し得る最大のケアを支援することに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ったり救急隊員の指導による訓練を受けるよう努力している			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団との合同避難訓練を行ったり夜間を想定した避難訓練を行っている	3か月に1回は、一階、二階と交流会を行う行事の後に避難訓練を取り入れている。最近、消防団協力の下、避難訓練も実施しており13名の団員の他、地域の方の参加が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりの言葉かけやプライバシーの保護に努めている。		「人生の先輩として学ぶことが多い」と敬う気持ちを忘れず言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを伝えることができるよう声かけなどで工夫している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやその日の体調に合わせて希望に沿うよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪、男性には毎日のひげそり、女性にはできるだけ好みの洋服が着れるよう支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで育てた野菜と一緒に収穫し食材に使ったりメニューの希望を聞いたりしテーブル拭きや下膳など一緒にしている		職員と利用者は同じテーブルを囲んで、同じものを会話をしながら食べている。下膳やテーブル拭きも職員と一緒にしている。菜園での収穫は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立やチェック表による水分、食事摂取量、排泄、体重などを把握し、状態により刻み食やプリン状の食事も取り入れている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持が出来るよう磨き残しがないかチェックし本人の力に応じた見守りや口腔ケアをしている			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知り一人ひとりに応じた声掛けで排泄の自立に向けた支援を行っている		日中、夜間とも利用者がトイレで排せつできるように自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況、水分摂取量をチェックし、テレビ体操、歩行運動などを取り入れている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日によって入浴を行っているが基本的には毎日入浴することが出来るので体調や希望を聞いて支援している		湯加減や、女性の後を嫌がる利用者など、その人に応じた対応を行い、入浴が楽しいものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の清掃、寝具の洗濯などで気持ち良く過ごして頂けるように支援している。又、ベッドや布団、畳フロアなど好みで選べるようになっていく			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬前後で確認し誤薬の防止を行っている薬の変更があれば毎日の申し送りで報告し全員把握している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った役割を持つことで支援している			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどで気分転換したり家族の面会時に外出できる機会を作っている		日常的にホーム周辺の散歩や庭先の菜園に出向いている。最近、熊本方面へドライブをし、かかしアートを見学するなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人には金銭の管理はお願いしておらずレベル的にお金を所持し使うことは難しい状態にある			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人に代わり手紙などについては説明して希望があれば代わりに読んであげている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールなどに季節の花を飾ったり季節や行事に合った飾りつけをしている。空調も心地よく過ごして頂けるように調整を行っている。	浴室や、トイレ、居間等の掃除が行き届き、臭いもなく清潔に保たれて、居心地良く過ごせる空間となっている。居間の窓から栗林が見え季節の移ろいも感じ取れる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで共に過ごせるようにテレビの位置やテーブル、ソファの配置に気配りしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具やたんず、愛読書や人形、写真位牌などを持ち込むことによって居心地良く過ごせる様に工夫をしている。	和室・洋室があり、写真やタンスが持ち込まれ、それぞれその人らしい居室となっている。クローゼットがしつらえられてあり、思い思いの品物が収納されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などわかりやすいように表示し居室も花の名前にして個々のADLに合わせた居室の配置と安全な環境づくりを行っている			